



HPを
チェック

他のニュースも、ホームページで随時更新中！

ぽらーのNEWS トピックス

鉢花りんどう PR強化を！ 岩手県・達増知事に2品種を贈呈

花巻農協鉢花部会の小田嶋正一 部長、佐藤源悦、淵澤拓也 両副部長とJA全農いわての畠山正副部長は10月16日、県庁を訪れ、達増知事も知事に県オリジナル品種の鉢花りんどう「いわて八重の輝きブルー」と「いわて恋ももりん」を贈りました。

小田嶋部会長は「安定した生産が続けられるよう、産地PRや消費宣伝活動を拡大してほしい」と伝えました。



達増知事（中央）にりんどうを贈った（左から）佐藤副部長、畠山副部長、小田嶋部会長、淵澤副部長

ピーマンとリンゴをプレゼント 宮沢賢治童話村で農産物をPR

花巻市農業対策本部園芸振興部会は10月4日、宮沢賢治童話村（花巻市高松）で農産物のPRイベントを行い、JAと花巻市の職員がピーマンとリンゴを来場者100人にプレゼントしました。

同日は、JAのオリジナルキャラクター「ピーやん」が参加し、花巻産の農産物をPRしました。JA職員は「地元の農産物を知って、たくさん食べてください」と呼び掛けました。



農産物をPRする「ピーやん」とJA職員

さといも分離機の実演会を開く 農作業の省力化に向けて

生産者やJA、市で構成する「三子」といも協議会は10月29日、高橋正徳さん（北上市二子町）の圃場で、親イモと子イモを分離する「分離機」の実演会を開き、約40人が参加しました。

参加者は、（株）みちのくフタタの「さといも分離機 BKC1」による分離作業を見学し、機械のセッティングや調整、安全性について質問しながら、今後の作業の参考としました。



分離機の動作を確認する参加者

「ホル全共」前に健闘誓う 遠野市の佐野茂樹さんが表敬訪問

全日本ホルスタイン共進会（10月25日から北海道安平町にて開催）に岩手県代表牛を出品する遠野市上郷町の佐野茂樹さんは、高橋利光組合長に大会での健闘を誓いました。

通算5度目の出品となり「多回出品者表彰」を受けることが決まっている佐野さん。「選んでいただいた牛を良い状態で出品できるよう、最後までベストを尽くしたい」と意気込みを語りました。



高橋組合長（左）と握手を交わす佐野さん

需要期の数量確保に向けて 出荷規格を確認

野菜部会きのこ専門部は10月28日、北上・みなみ・さくら・三子支店（北上市流通センター）で菌床シイタケの出荷目ざろえ会を開きました。

JA職員や市場関係者、生産者など22人が参加し、実際に現物を確認しながら出荷規格について意識統一をはかりました。市場関係者は「最需要期の年末に向けて少しでも多く出荷数量の確保をお願いしたい」と話しました。



現物を手に出荷規格を確認する参加者たち

ランフェスで「銀河のしずく」PR 北上市の千葉さんおにぎりふるまい

「銀河のしずくマイスター」の千葉欣哉さん（北上市稲瀬町）は、10月12日に北上市内で行われた「ランフェス」で多くのランナーや来場者に向けて「銀河のしずく」を使用したおにぎりをふるまい、おいしさをPRしました。

千葉さんは「自分が育てた米で作ったおにぎりの感想を直接聞くことができ、良かった」と笑顔で話しました。



走り終えたランナーにおにぎりを手渡す千葉さん（右）

病害虫対策について確認 秋じまい講習会

JAと中部農業改良普及センターは10月28日～30日の3日間、管内6会場で野菜全般の秋じまい講習会を開きました。

29日に総合営農指導拠点センター（花巻市野田）で行われた講習会では、生産者など14人が参加し、農閑期の残渣処理や土壌診断など、来年度の病害虫抑制に向けた対策を確認しました。同センターの職員は、適切な作業を講じて収量・所得の向上に繋げるよう呼び掛けました。



病害虫対策を説明する中部農業改良普及センターの職員

過期の収穫に向けて セリの生育状況を確認

江釣子芦生産組合は10月22日、11月中旬から始まる今年度の出荷に向けて、生産者などが互いの圃場を巡回し生育状況や病害虫被害を確認しました。

JA職員は、現状病害虫による被害は見受けられないが、生長し葉が過密になるとアブラムシが発生する恐れがあるとして注意を呼び掛けました。同組合の佐藤孝志組合長は「過期の収穫に向けてしっかりと準備を進めよう」と話しました。



生育状況を確認する参加者たち